

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》 近藤里美 浅野雅子

【概要】

多様な障害に対する支援技術として音楽を用いるための基礎知識を習得する科目である。近代音楽療法の歴史、音楽の療法的役割について学ぶ。また、音楽を療法的に実践するための基礎的な音および音の表現の意味理解などについて演習をして学ぶ。

【学習目標】

音楽療法をリハビリテーションに活用するための基礎知識を学ぶ。

1. 音楽療法の歴史を知る。
2. 音楽療法の背景となる様々な考えを理解する。
3. 様々な障害に対する音楽の療法的な役割について説明することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の流れや評価の説明	近藤里美
2	人と音楽の関わり	音楽療法の歴史	近藤里美
3	音楽の認知1	音の高さ・旋律	近藤里美
4	音楽の認知2	リズム・調整	近藤里美
5	音楽の療法的役割1	音楽の影響 身体的側面・認知的側面	近藤里美
6	音楽の療法的役割2	音楽の影響 心理的側面・社会的側面	近藤里美
7	医療と音楽療法	医療領域での音楽療法 神経学的音楽療法を中心に	近藤里美 増澤綾子（特別講師）
8	まとめ	リハビリテーション領域で生かされる音楽療法	浅野雅子

【評価方法】

リアクションペーパー50%、期末レポート50%

【備考】

教科書：講義時に資料を配布する

参考書：マイケル・タウト 三好恒明 他 訳 「新版リズム、音楽、脳：神経学的音楽療法の科学的根拠と臨床」 共同医書出版社 2011年
 谷口高士 「音は心の中で音楽になる」 北大路書房 2000年
 ステーブ・ミズン 熊谷淳子 訳 「歌うネアンデルタール：音楽と言語から見るヒトの進化」 早川書房 2006年
 ジョン・ブラッキング 著 徳丸吉彦 訳 「人間の音楽性」 岩波書店 1978年
 Wigram, T. 他 著 「Comprehensive Guide to Music Therapy: Theory, Clinical Practice, Research and Training」 Jessica Kingsley Publishers 2002年

【学習の準備】

音楽療法に対して日頃から関心を寄せ、図書館所蔵の関連資料等で事前学習と事後学習にそれぞれ80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病气やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って理学療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

浅野雅子（作業療法士、音楽療法士）、近藤里美（音楽療法士）、増澤綾子（音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関及び介護保険施設での実務経験を活かし、担当の講義を行う。